



総合的な探究の時間

「探究Ⅰ」1年

探究Ⅰでは芸術に関する幅広いテーマを横断的・総合的に学習する探究活動を通じ、自己の在り方や生き方を考え、生涯にわたって学ぶ姿勢とキャリアプランニングの基礎を学びます。様々なアクティブラーニング(フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)とICT機器の活用(インターネットを使った情報収集やタブレットを使った動画編集など)を通じ、主体的に課題を見つけ、情報収集する能力を培い、その活動の基礎基盤となる論理的思考力・言語活用能力の育成を目指しています。

また、3月実施の美術研修旅行(3泊4日)に向けての事前学習として、本授業において訪問先を調査・研究し、情報を観察・分析し論理的に考察する力を身に付けます。
このように多岐にわたる芸術分野についての鑑賞や見学、ワークショップやプレゼンテーションをおこない、美術を通して学ぶことの大切さや、美術が人や社会に与える力や役割を仲間と協働して主体的・対話的に学ぶことを目的としています。



総合的な探究の時間

「探究Ⅱ」2年

「探究Ⅱ」は、普通教科の授業や美術の専門教育で学んだ知識や技能を教科横断的・総合的に活用しながら、個人では解決できないことを、他者と協働しながら課題探究に取り組み、自分なりの答えを創り出す学習活動です。ここでは主に、2030年までの達成を目指す国連のSDGs(持続可能な開発目標)をテーマとして取り組みます。自分の身の回りの問題から広く社会的・世界的な問題へと視野を広げ、自分の意見を考え述べることや、他人の意見に傾聴することで多様な考え方を知り、その知識と経験を総合し、より良いものを創造する力へとつなげていきます。

具体的には、1年次の3月に実施した美術研修旅行の事後学習および発表、それをもとに美術に関するテーマでエッセイ(レポート)を書きます。また、4~5人のグループでSDGsの17の課題について学習し、その中からグループで探究したい課題を選び、仲間と協働して探究活動を進めます。指導教員はもとより、大学等の研究機関や市役所などの行政機関、NPO団体、地域の方々など、先行して課題解決に取り組んでおられる外部の方々の支援・助言を求めながら学習を進め、最終的には、解決策を提案し、その具体化を目指します。



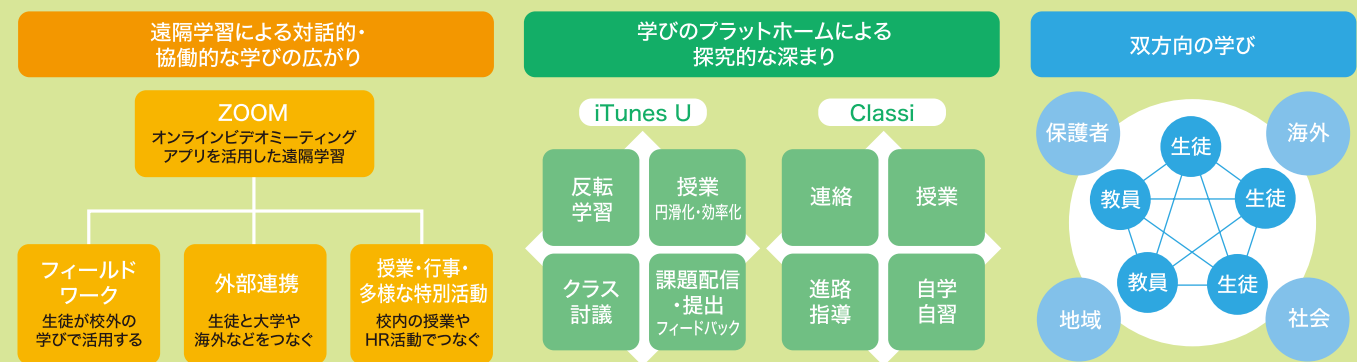
ICT教育

Information and Communication Technology



本校では、ICT機器を活用し、生徒が互いに教え学びあう「協働学習」を授業に幅広く取り入れ、生徒の言語活動の充実を図ることにより、思考力・判断力・表現力を育成することを目標に授業を行っています。校内WiFi環境を整備し、生徒全員が入学時にタブレットiPadを購入し、一人一台タブレットを教具として持参する「BYOD」(Bring Your Own Device)のスタイルで、効果的な学習を進めています。

タブレットやアプリケーションを活用することで、授業の中での教材提示・配信、情報収集や共有、学習記録の保存・編集など多岐にわたる効果的な学びが実現しています。特にiTunes UやZoomなどのアプリケーションを利用することで双方向授業や探究型授業、離れた場所との連携学習ができ、豊かな学びを展開しています。さらに、Classi(生徒の学習をサポートするプラットフォーム)というサービスを利用し、授業の予習・復習に役立つ関連分野の動画や課題教材を配信し家庭学習の充実を図っています。情報モラルについては、学校としてのガイドラインを作成し、教科「情報」の授業はもちろん、生徒の情報モラル委員会の活動も推進しながら、情報リテラシーを身につける教育を行っています。



総合的な探究の時間

「探究F」3年

アートフロンティアコースの生徒が取り組む「探究F」では、「探究Ⅰ」「探究Ⅱ」で培った力と経験を生かし、キャリア探究活動とグループでの探究活動に取り組みます。

キャリア探究活動では、美術作家やゲーム、アニメーション、デザインなど様々な分野の第一線で活躍する大学関係者やクリエイターの方々に講師としてお招きし、講演やワークショップを通して、創作活動の喜びや苦しみ、制作現場の厳しさや働くことの意味を学び、自らのキャリアプランニングを踏まえた自分の在り方・生き方を考えます。

探究活動では、SDGsをテーマにグループで設定した課題を、美術専門高校生として何ができるかを深く掘り下げ、京都市や地域団体、企業、大学等の教育機関などの協力の下、生徒自らが調査研究などの取り組みを行い、成果物作成までの過程を通して主体的・協働的な学びを行います。

2019年度は、SDGsのテーマの一つ「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」をとりあげ、本田技研工業株式会社・株式会社リパネスから講師をお招きし、HONDA次世代水素教育プロジェクト・理科・社会連携プログラム「水素エネルギーで燃料電池車を走らせよう!」のワークショップに取り組みました。当日はSDGsに積極的に取り組んでいる京都市の燃料電池自動車を学校にもってきていただき学習しました。



アクティブラーニング

主体的・対話的で深い学びを実現するため、本校ではアクティブラーニングを取り入れています。総合的な探究の時間では、「作品との対面力を養う」をキーワードに、美術に関する幅広いテーマを横断的・総合的に学習し、フィールドワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ショートムービーの撮影・編集、文章作成など、様々なアクティブラーニングとICT機器の活用を通じ、主体的に課題を見つけ、言語化して考え、判断し情報収集する能力を培います。この他、様々な探究活動を通じ、他者と対話・協働して課題を発見・解決し、自己の在り方や生き方を考え、生涯に渡って学ぶ姿勢や主体的に行動し考える力を育みます。多様性を尊重した授業は、個々のユニークな視点での課題発見と創造的な解決を生み、生徒の感性を生かした能動的な学びを実現しています。

普通教科の授業では、アクティブラーニングの「生徒が能動的に学ぶことによって『認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る』」の定義に基づき、学習者である生徒が、能動的に学べる学習活動に取り組んでいます。ディスカッションやプレゼンテーション、ペアワークによる言語活動や問題演習、グループワークによる課題探究、動画配信による予習・復習、映像を利用した実技や実験など、アクティブラーニングを通じて、各科の専門性に沿った深い学びの実現を目指しています。

